



年 組 名前

道新で
ワークシート

ラグビー 日本大金星

世界2位
アイルランド
19-12
W杯

ラグビーのワールドカップ（W杯）日本大会で史上初の8強入りを狙う世界ランキング9位の日本が28日、4万7813人の大観衆を集めた静岡県袋井市の静岡スタジアムで行われた1次リーグA組の第2戦で、世界2位で優勝候補のアイランドを19-12の逆転で破る大金星を挙げた。A組最大の強敵を倒した日本は2連勝で勝ち点を9に伸ばし、8強進出に大きく前進した。

リーチの鬼気 チームに闘志

日本は2015年大会で優勝2度の南アフリカを破ったのに続き、2大会連続で優勝候補を相手に番狂わせを演じた。

伝統ある欧州6カ国対抗のチームにW杯で勝つのは初めて。アイランドとは10度目の対戦で初勝利となった。

初戦から主将のリーチ・マイケル（東芝、札山の山高出）ら先発4人を入れ替えて臨んだ日本は、前半を9-12で折り返した。後半は途中出場した福岡堅樹（パナソニック）が逆転のトライを挙げ、リーチらが体を張った守りで相手の反撃を封じた。

W杯は20チームが4組に分かれて1次リーグを戦い、各組上位2チームが準々決勝に進む。日本は10月5日にサモアと戦い、13日にスコットランドと対戦する。

（世界ランキングは27日付）

海外出身と日本選手 一つに

4年前、世界に与えた衝撃を

日本で再現した。ラグビーのW杯1次リーグ第2戦。優勝候補のアイランドを撃破すると、地響きのような歓声が選手たちを包んだ。2015年W杯で届かなかった8強入りへ大きな一歩。過去最多の海外出身選手と、日本選手が一つの「塊」になった。

シャパンが、再び日本ラグビーに新たな歴史を刻み込んだ。W杯で自身初の控えに回ったリーチ・マイケル主将の途中出場が反撃の合図だった。3-12の前半30分に途中出場。「出たらインパクトを残そう、ボールキャリアーもタックルもがんがんに」と覚悟を決めていたとリーチ。重くて分厚い「緑の壁」に鬼気突進とタックルを繰り返した。前半は9-12で折り返し。後半もニュージールランド出身の主将の闘志が乗り移ったようにチームは好タックルを連発。WTB福岡堅樹がチーム唯一のトライを奪って大金星を引

き寄せた。

アイランド戦は控えを含め、23人中11人が外国出身選手。「日本人離れ」した身体能力だけで代表入りしていると思われがちだが、その見方は的を射ていない。身長188センチのロック、ピンピー・ファンデルバルト（NTドコモ）は、2倍超の巨漢がそろそろ母国南アフリカのFWの中では小柄。速さを生かす日本流に適応して代表に加わった。具智元（ホンダ）ら外国出身プロップも足の幅1センチにこだわっている日本の緻密なスクラムに学び、アイランドの強烈な押しを受け止めた。

不足するパワーを外国出身の選手が補うことで日本人が技術や素早さを出せる場面が増える相乗効果も生んだ。

日本選手と外国出身選手は互いの強さと弱さを補い合う関係。2度目の番狂わせは奇跡ではない。「多様性がある日本の強さを示したい」と語っていたリーチの願いは実現し、シャパンは本当の「ワンチーム」となった。リーチは「4年前に勝利した」南アフリカ戦はだれも期待していなかった。きょうは期待された中で勝ててうれし」と胸を張った。

2019年9月29日（日） 朝刊 全道遅版 1P（記事は再編集しています）

①本文中の□にあてはまる言葉を書きなさい。また、「鬼」という言葉を使ったことわざを一つ書きなさい。

②リーチ・マイケル主将が言う所の「多様性がある日本の強さ」とは具体的にどのようなことですか。30字程度で書きなさい。